

平成 25 年度第 2 回シカ保護管理検討委員会会議録

平成 25 年 9 月 11 日開催

- 【事務局】 1 開 会
- 【事務局】 2 あいさつ
- 【事務局】 3 議 事
議 題（1）「第 4 次シカ保護管理計画案について」
事務局より説明
- 【堀野委員長】
- 【菅野委員】 岩手県猟友会では岩手県外の狩猟者の登録事務を扱っておりますが、その際に岩手県の野生鳥獣の放射性物質の検出状況はどうなっているかという問い合わせが時々あります。去年のデータは私たちも持っているが、最近のデータはありますか。シカとキジ、ヤマドリ等の狩猟のために岩手県に狩猟者登録申請をしているかと思うので、新しいデータがありましたら教えていただきたい。
- 【事務局】 市町村、ハンターの皆様にご協力をいただき、サンプルの提供をお願いしているところです。狩猟期前までにはまとまった情報を皆様にご提供できるように作業を進めているところです。検査でき次第速やかに情報提供していきたいと考えております。
- 【堀野委員長】 意見が出ないようですので、「第 4 次シカ保護管理計画案」について事務局案のとおりとしてよろしいでしょうか。
「異議なし」の声
- 【事務局】 議 題（2）「平成 25 年度シカ保護管理対策について」事務局より説明
- 【青井委員】 メスジカの積極的な捕獲に努めるとありますが、それを担保する具体的な方策がどこにも記載されていません。第 3 次計画まではオスの捕獲制限をすることでメスの捕獲を進めることとしていたのですが、第 4 次計画ではどのようにしてメスジカの捕獲を進めるのでしょうか。
- 【事務局】 第 4 次計画においてわな捕獲の推進を図ることとしておりますが、わな捕獲では選択的な捕獲が困難であることから、オスジカの捕獲制限を撤廃したところです。
メスジカの捕獲を推進するために、すぐにできることとして狩猟事故防止研修会など様々な研修会等の場でメスジカの捕獲が大事だということを認識してもらうよう説明をして周知を図っていきたく考えています。
今年度の捕獲の結果を見て、メスの割合が低いようであれば、対策を検討していかなければならないと考えています。
- 【青井委員】 委託捕獲でオス、メスで委託金額の差をつけることはできないのですか。
- 【事務局】 差をつけたとしても、捕獲確認の際にオスとメスをどのように確認するかといった課題があり、捕獲を推進しようとしている中で、確認行為が支障となつてなかなか捕獲が進まないということになると問題であると考え、金額に差をつけていないところです。また、拡大している地域ではオスの方が多いなど、地域の状況の差もあるということで、金額に差をつけておりません。
- 【藤沢委員長】 確認のため、メス特有の部位を提出してもらうこととするのはどうでしょうか。どの部分で区別するか難しいかもしれませんが。

平成 25 年度第 2 回シカ保護管理検討委員会会議録

平成 25 年 9 月 11 日開催

- 【菅野委員】 平成 25 年度の捕獲目標を見て、まず驚きました。昨年度の 2 倍に近い数字を目標値として掲げているわけですが、猟友会としては目標に近づけるよう努力をするわけですが、狩猟者の減少や高齢化が進んでいる中で、猟友会としてこの目標に対応できるかどうか、目標に近づけるために何をしたらよいか悩みます。
- 【事務局】 生息数が増えておりますので、それに伴い、目標値が大きくなっています。現在、捕獲に対する支援が出てきており、捕獲を進める追い風となっています。近年、捕獲数が右肩上がりになってきていますので、まず目標を掲げ、捕獲目標の達成に向けて捕獲を進め、仮に届かない状況となった場合、その結果を検証し、次への課題として、目標を達成するためにはどうしたらよいか検討を進めていきます。今年度の捕獲数については、市町村等からの聞き取り結果等により昨年度の捕獲頭数を上回る見込みをもっています。
- 【菅野委員】 捕獲目標は、狩猟と有害捕獲をあわせたものか。
- 【事務局】 狩猟と有害捕獲をあわせた全体の捕獲数であります。
- 【堀野委員長】 今期から狩猟期間を 3 月まで伸ばすこととなっていますので、雪が溶けてくる季節の捕獲数が増えることになればよいですね。
- 【宇野委員】 大船渡市や遠野市等では、捕獲数を増やすための対策についてどのようなことを考えていますか。
- 【鈴木代理】 市単独 200 頭、緊急捕獲対策 400 頭、パトロール等併せて 650 頭の有害捕獲を市として進めることを考えております。また、県の委託による捕獲を進めるとのことですので、これと併せて捕獲を進めていきます。
- 市議会の質問でも出ておりますが、県による捕獲を評価しており、これを引き続き実施するとともに、頭数を増やしてほしいという声が出されていますので、市としても県に伝えていくとしております。
- 五葉山地域の捕獲目標が 5,000 頭となっておりますが、五葉山地域の有害捕獲計画が 2,000 頭、県による委託が全県で 2,300 頭であり、これ以外の一般の狩猟が加わったとしても、5,000 頭は厳しいのではないのでしょうか。この 5,000 頭に近づけるために県としてどのように考えていますか。
- 【赤澤委員】 捕獲目標は推定生息数の 11,000 頭を 3 年間で低減することとしているが、3 年後の頭数は何頭を想定していますか。また、今年度 5,000 頭に達しなかった場合、次年度以降増やすことでも対応が可能なのでしょうか。
- 【事務局】 有害捕獲や県による捕獲に併せて、狩猟規制の緩和により一般狩猟の促進を図り、様々な対策で捕獲を促進していきたいと考えています。
- 4 次計画の中で、シカの生息数は 1,000 頭を下回らないように留意することから、3 年後の頭数は 1,000 頭に近い数値を想定して捕獲目標を設定している。
- 【堀野委員長】 確かに 7,700 頭は挑戦的な数値だと思います。しかし、捕れると思っっている数値の緩い目標とするよりは良いのではないのでしょうか。
- ただ、これが猟友会側だけの負担増で終わらないようにあらゆる策を尽くして、捕獲を推進していただきたい。

平成 25 年度第 2 回シカ保護管理検討委員会会議録

平成 25 年 9 月 11 日開催

【千葉委員】 有害捕獲実施計画を見ると広域一斉捕獲の頭数がゼロとなっていますが、実施しないということですか。

【事務局】 これは実施しないということではなく、頭数未定ということです。

【青井委員】 捕獲目標を高く掲げることは自体は問題ないのですが、個別の狩猟者だけをお願いしても、なかなか達成は難しいのではないのでしょうか。やはり、大量捕獲につながる捕獲方法の綿密な検討もしていかないと目標の達成は難しいのではないのでしょうか。

現在、大量捕獲の方法がいろいろなところで検討されてきていますので、各地の事例を参考として、効率的な捕獲方法の検討と実施をやっていただきたいと思っています。

【宇野委員】 予算がつけば捕獲数はまだ伸びるのでしょうか。もう限界なのでしょうか。

【佐々木代理】 平成 24 年 8 月に実施隊を設置し、61 名の隊員でスタートしたところですが、今年度の 10 月に 6 名ほどの隊員が増える見込みです。今年度、狩猟免許取得の予備講習会と試験を遠野市で開催することもありまして、昨年度末に予備講習会前の講習会を開催し、免許取得に興味ある方々に啓発をするといった取り組みをしたところですが、こういった形で人材育成しながら、駆除できる期間を拡大するため、3 月と 4 月に駆除期間を拡大して、年度をまたいで駆除を実施しています。その結果、3 月、4 月で 250 頭捕獲しており、4 月だけで 180 頭捕獲しております。

捕獲頭数の 7、8 割がメスであり、受胎中の個体も相当数あり、今年度の個体数減少に相当影響していると思われま。

有害捕獲実施計画に掲載されている 300 頭は、被害防止計画で計画している頭数であり、実際の目標としては 500 頭以上の目標で昨年度実績の 332 頭の 2 倍近い計画で進めております。実際の取組としては緊急捕獲対策の補助金も措置されたこともあり、捕獲頭数は昨年度より上回る状況と考えております。

【林尻委員】 地域ぐるみの捕獲推進モデル事業での研修会に遠野市以外の方も参加できるのでしょうか。

【佐々木代理】 遠野市内でモデル事例を作ることを目的としているので、遠野市の方を対象に実施することとなっております。

【堀野委員長】 遠野市でモデルを作るということですが、その後の見通しを教えてください。

【事務局】 地域ぐるみの被害防止対策を県としても進めており、その一環として指導者研修会などを開催しながら、地域ぐるみの体制整備を進めていこうとしております。今年度から、各市町村、振興局が連携して、住田町や大船渡市などで農家の方も一緒に集落の状況を点検する等地域ぐるみの取組が動き始めています。

そういった取り組みを絡めながら、連絡会や研修会等で情報の共有化を図っていきたい。各地域にモデル事例ができあがれば、地域ぐるみの取組がさらに広がると思います。

【菅野委員】 五葉山地域の市町村や遠野市などの市町村の対応は、危機感をもって一生懸命

平成 25 年度第 2 回シカ保護管理検討委員会会議録

平成 25 年 9 月 11 日開催

やっていると見ていますが、今、拡大している地域では、市町村の担当者がこの地域にシカがいるということを知らないこともあると思います。それに伴い、危機感もあまりない。まず、こういったところを研修や振興局の指導により、市町村に危機感を持ってもらうよう指導をお願いしたい。

【堀野委員長】 被害防除対策計画にある被害状況調査はどのような内容かお聞きしたい。被害対策のニーズを把握するものなのか、有害捕獲との兼ね合いで有害捕獲の効果測定までできるようなものでしょうか。

【事務局】 アンケートによる被害状況調査を実施すると聞いています。調査結果の活用方法まで十分把握していないが、有効な活用の仕方を勉強しながら取組に活かしていかなければと考えています。

【堀野委員長】 アンケートのフォーマットは統一したものでですか。

【事務局】 平成 24 年度に遠野市でアンケート調査を実施したところ有効であったことから、遠野市で実施したアンケートの様式を提供いただき、研修会で市町村の担当者に事例紹介をするとともに、様式の提供を行っています。

【佐々木代理】 昨年度、市内の 2 反分以上の農家の方 4,000 戸を対象にアンケートを実施し、シカの目撃、被害状況、被害対策の状況について調査し、今年度は対象を絞り込んで実施することとしています。

調査の結果、市内の中でも地域によって温度差があることから、そういった地域でどのような対策をしていくか参考としている。

【堀野委員長】 繰り返し調査をする中で、捕獲効果があるのか等読み取れるものであるとよいと思います。

【事務局】 被害額について、市町村内のどこの被害額であるのか把握しているかというところと全ての市町村で把握している状況ではないです。そうすると有効な手立てとしての柵をどこに張ればよいのか次の対策に行けない状況です。被害状況調査については農業団体の方々にも動いていただいて、どこの地域で被害が発生しているか把握できるように取り組んでいきたいと考えております。

【津内口委員】 早池峰山周辺地域の捕獲について、時期とか頭数等が具体的に決まっていたら教えていただきたい。

【事務局】 現時点で頭数等は決まっていません。早池峰山地域での捕獲が初めての事であり、捕獲の進め方等について各地域の猟友会さんから聞き取りを行ったところです。その結果を踏まえながら、現在、内容を検討しているところであります。

【青井委員】 北上高地の放棄草地の問題を抜きにしては、シカの増加の防止は考えられないと思います。今回の計画で触れてはいますが、放棄草地という表現がない。使っていない放棄草地が大量にあり、そこがシカの増加の温床になっている事実はあると思いますので、放棄草地の取扱いについても検討する旨の表現を入れておく必要があると思います。

放棄草地の除染が進み、使われていないのに草地が新しく更新されるという矛盾したことが行われるので、それに対する歯止めという意味も含めて、放棄草地の取扱いについても情報収集を進めるなど入れておいていただきたい。

平成 25 年度第 2 回シカ保護管理検討委員会会議録

平成 25 年 9 月 11 日開催

【堀野委員長】 平成 25 年 3 月に五葉山地域でヘリコプターによる生息数調査を実施したところですが、平成 19 年 3 月の調査結果と比べてみると、ある一定のところに密度の高いところが出ており、それは牧草地が多いところのようであります。牧草地に依存した増加が実際かなり進んでいる可能性があります。かなり重要な問題だと思います。

いろいろな縛りがあって難しいということも聞いていますが、粘り強く進めていただきたい。青井委員のおっしゃる通りもう少し踏み込んだ書き方にしたい方がよいと思います。

【事務局】 草地の現状もわかっておらず、まず草地の現状を把握していかなければならないので、まず第一歩目として現状把握を着実に実施していきたい。

【林尻代理】 牧草地の情報収集、調査を行うと管理している団体や市町村から対策はどうしてくれるんだという話になると思います。使っている草地や畑であれば、市町村の被害防止計画の中で対策を講じることも積極的に実施してもらうことができると思いますが、使わなくなって何年もたっている草地では、そこに市町村が積極的に関わっていくかというとなかなか難しい部分もあることも予想されることから、本当にそこが個体数増加の原因になっているのかというバックデータを持たなければならないということと、調査した結果対策をどういう方向に持っていくのかということも併せて考えたうえで、情報を集めていかないと、調べてそこが原因と分かっても、手を打てないということも考えられることから、慎重に調査を進めていかなければならないと思います。

【青井委員】 放棄草地の利用実態については、今、研究室の卒論で調べているので、いずれ結果をお見せできるのかと思います。実際に草地に 100 頭、200 頭が昼間から出てきているところがありますので。

対策としてのオプションはそんなに多くはないと思います。例えば、一番良いのは元の森林に戻すことですが、いろいろな問題があり難しいと聞いております。であれば、そこを使えないようにする。具体的にはフェンスで囲んで入らないようにすることです。特に除染対象地域はものすごく草地の価値が高まるわけですね、肥料をまいて種を播いて新しくするわけですから。それで、草地を使わないわけですね。そういう除染して草地更新するところには、必ず柵で囲ってシカが入らないようにするとかなど、お金があればできることなので、こういったステップを踏めるかどうか、関係部局が相談して、検討してほしいと思います。

【宇野委員】 県として狩猟免許取得の手数料補助とか考えた方がよいと思います。陸前高田市や住田町では市町村単独事業で実施しているようですが、それほど大人数が押し寄せるわけではないと思うので、少しでも若い担い手が確保していく対策として県としても助成などを考えていく必要があると思います。

【事務局】 県としても捕獲の担い手対策をすすめていくため、市町村や猟友会にアンケート調査を実施しているところであり、その結果を踏まえながら県としてできることについて実施していきたいと考えております。他県の事例等も勘案して総合的

平成 25 年度第 2 回シカ保護管理検討委員会会議録

平成 25 年 9 月 11 日開催

に進めようとしているところです。

【堀野委員長】 県では目撃情報の収集をここ数年実施していますが、強化してほしいと思います。全県的にシカが広がりつつある中で、いる、いないであれば新たな情報は出にくいと思いますが、例えばオスしかいなかったところにメスが出てきたとか、子連れが出てきたとか、目撃数が増えてきているなど大事な情報になりますので、その際に今のやり方だと受け身の情報収集であることから、もう少し工夫していただいて、報告した人が報告した手ごたえを感じ、次も報告しようと思うような工夫をしていただきたい。全県のシカの状況の調査はいろいろな方法を組み合わせる必要があるのですが、目撃情報はその中でも柱になると思います。今までの実績もありますので、この取組をもう少し育てていきたいと思います。

これは、県民に対しシカの脅威が全県に広がっているという広報、メッセージの働きもありますので、よろしくお願いします。

【堀野委員長】 意見が出ないようですので、「平成 25 年度シカ保護管理対策」について事務局案のとおりとしてよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

【事務局】 4 閉会